

鹿ノ台川柳教室 十一月度句会

十一月十八日(月) 鹿ノ台西集会所

席題「ゆらゆら」

奥村義雄選

佐渡をも揺るがすツルべ落とし見事 千楽
 ゆらゆらと安倍内閣に散る桜 幸男
 ゆらゆらと歩いて笑う0才児 よし尚
 ご即位を皆でお祝い旗ゆれる 春代
 急がない残る旅路もゆらゆらと 充
 自信なげ高齢マークゆらゆらと 哲子
 ゆらゆらと揺れる心に神の声 宏樹
 グラス越し瞳が揺れる赤ワイン 広子
 喜寿迎え未だゆらゆら揺れている 乃り子
 胸の中仏と鬼のやじるべえ よう子
 ぶらんこをこいで子供は空泳ぐ 登美
 ④ブランコがゆれて近所の温い風 アキラ
 軸念押されまたゆらゆらと揺れ動く 義雄

③銀杏の木叩いて秋を落としてる

よう子

虐待を躰だつたと言ひ逃れ

乃り子

香港を叩き潰せず銃放つ

アキラ

減らず口叩く合い間に仕事する

千楽

④伸びすぎた鼻っ柱を小突かれる

ちさと

出る杭を叩き続けて五十年

ちさと

極上の無駄口叩く午後のお茶

広子

⑤肩たたき痛いと言えぬ孫の拳

英二

⑥やんわりと買ひ叩かれた自尊心

広子

主義主張持たず気楽に手を叩く

宏樹

叩かれて叩かれて杭強くなる

アキラ

⑦叩かれて匂う木の芽に学びたい

よう子

⑧秀安い肉叩いて美味く食べる技

春代

宿題自由吟(共選)

五十嵐千楽選

身の丈の努力じゃ無理な田舎です よし尚
 スポーツ愛政治のしこり吹っ飛ばす 哲子
 見舞わずに訃報のハガキ師走知る 乃り子
 今が底先大丈夫と有識者 よし尚
 五指で足る老人会の健常者 義雄
 ちようどよくメロン熟女になっている 正清
 タフでなくやさしくもなく生きてます 英二
 有難うすつと言える日言えない日 義雄
 暴れても歌でやさしい千曲川 充

宿題「神」(連記)

岩崎よし尚選

古希過ぎて余生を刻む神の声 宏樹
 神は見よこの災害の苦しみを 義雄
 二人して米寿迎える神頼み 乃り子
 祖母が言うお天道さん見ているよ 千楽
 鉛筆を転がすだけの神だのみ ちさと
 神様がホントにいたら祈らない 英二
 死に神と貧乏神と山の神 正清
 天災に神も畏れず強くなり 充
 十三参り振り返らずに渡月橋 春代
 天災時人を試すは神の意志 哲子
 神頼み三回目には断られ 幸男
 女神でさえ隠し持つてる般若面 よう子
 神ほとけ人の心に日々ひそむ 登美
 生かされていると気づいた手術台 広子
 秀お百度を踏んで明日が少し見え アキラ
 軸神頼み願いかなわず易に凝る よし尚

⑤五欲まで捨てて路傍の石になる ちさと
 軸天か地か命運握る楯円球 千楽

宿題自由吟(共選)

前田幸男選

豊作で実る田畑に熊が出る 宏樹
 タフでなくやさしくもなく生きてます 英二
 五欲まで捨てて路傍の石になる ちさと
 ひねもす独り四畳半でも広すぎる 英二
 有難うすつと言える日言えない日 義雄
 スポーツ愛政治のしこり吹っ飛ばす 哲子
 忘年会何を忘れるこれ以上 アキラ
 計算がしやすくなって消費税 正清
 見舞わずに訃報のハガキ師走知る 乃り子
 ⑥暴れても歌でやさしい千曲川 充
 軸年賀状差し出す先は黄泉の国 幸男

宿題「叩く」(互選)

②いちびつて袋叩きにされている 正清
 エイサ踊る太鼓の音のこきみよさ 春代
 叩いても渡らぬ人の人生観 哲子
 鼻差でもムチひと叩き勝は勝 よし尚
 鯨のたたき身につまされて出せぬ箸 英二

鹿ノ台川柳教室会員の新聞投句 掲載された句

(十月二十一日〜十一月十七日各紙掲載分)

朝日新聞 田中新一選

十月三十日 題「粘る」
子に戻る母べったりと離れない
よう子

毎日新聞 山田順啓選

十月二十四日 題「思い出」
異郷の地やつと訪ねる一人旅
よう子
十一月七日 題「手紙」
絵手紙に悲しさ記す白と黒
幸男

十一月十四日 題「鉛筆」
3Bで書けば気持ちもなめらかに
アキラ

読売新聞 阪本高士選

十月二十七日 題「鐘」
大脳にじごくの鐘が鳴りひびく
正清
十一月三日 題「折れる」
柿の木のもろさを知って柿をとる
正清
十一月十日 題「怒り」
お怒りをしずめて靴のひもとく
正清

十一月十七日 題「カレー」
コッヘルにぜつぴんというカレールー
正清

奈良新聞 居谷真理子選

十月二十三日 題「家」
家という幸せ包む箱がある
春代
2Kが幸せ隠し事できず
アキラ
お帰りに我が家の匂いホツとする
よう子
十月三十日 題「すつきり」
終活だ預金残高ゼロにする
英二

記念写真ひとつ残さずシュレッダー
アキラ
すつきりといのち燃やして終わりたい
よう子
すつきりと別れた人の影消えぬ
春代
省筆ができて画像が息をする
正清

十一月六日 題「おもちゃ」
紙ねんど翼をつけた未来カー
春代
おもちゃでも持たせたくない銃と剣
よう子

サンタさん高い玩具に思案顔
アキラ
子供らはおもちゃじゃないよお父さん
幸男
十一月十三日 題「目立つ」
クラス会むかし目立った顔はなし
英二

被災者のSOSが空を向く
アキラ
ハイチーズ爪先立ちというてらい
正清
控え目なのになぜか目をひく人がいる
春代

奈良新聞 自由吟

十一月十四日 松本柊子選
年輪に恥も誇りも刻む老い
よう子
意図的に高潮つくる土性骨
正清
口軽くなるのは孫の話だけ
アキラ
終活と遺影写真のポーズとる
幸男

*橋正清、前田幸男、勝部乃り子、山神春代、
各氏は短歌俳句でも活躍

次回 十二月十六日、十二時開場、西集会所

宿題は「セリフ」、「てきめん」、「自由吟」各二句
*「セリフ」(連記) 義雄選
*「てきめん」(共選) 乃り子選 英二選
* 自由吟(共選) 登美選 よう子選
*出句ペ 十二時二十分

自治連合会公認クラブ。生駒番傘川柳会のご指導
を得て、日頃の生活を、喜怒哀楽を、五七五に
句会のご見学、ご入会大歓迎、会費一ヶ月百円

問合せ 原 広子(79・0061)
野々村詮(090・6961・1292)